

被害地震年代表

日本地震学会及びWikiペディアより抜粋

▼西暦500年以前

地震の文字による記録は416年から始まる。文字以外では、堆積物によって地震の発生が推定されることがある。

縄文時代・弥生時代・古墳時代 2012年までの時点から約2000年～4000年前の2000年間 関東南部周辺、相模トラフ沿いを震源とした関東地震が少なくとも5回発生した。

紀元前4世紀～紀元前3世紀頃 三陸から房総にかけてM9級の超巨大海溝型地震と津波発生の可能性。宮城県気仙沼市大谷海岸で津波による堆積物が発見されたため。

弥生時代の不明時期 琵琶湖西岸でM7.5の地震。滋賀県文化財保護協会は遺跡調査の結果として、滋賀県高島市針江浜、草津市烏丸崎、野洲市湯ノ部の琵琶湖沿岸の3遺跡が弥生時代のこの地震による液状化でできたものとした。

2011年から約2000年前 M9級の超巨大地震の発生の可能性。高知県土佐市蟹ヶ池（海岸から400m内陸）で発見された、約2,000年前の地層からの厚さ50cmの津波堆積物から。

ほぼ210年前後 石川県白山市部入道遺跡の液状化痕跡から震度6強級の地震と推定される。

4世紀～5世紀頃 三陸から房総にかけてM9級の超巨大海溝型地震と津波発生の可能性。宮城県気仙沼市大谷海岸で津波による堆積物が発見されたため。

416年8月22日（8月23日）（允恭5年7月14日）

遠飛鳥宮（大和国／現・奈良県明日香村）で地震。『日本書紀』に「地震」の記述。記録に残る日本史上最初の地震。このころ4～5世紀、仙台付近で巨大地震。

▼西暦500年～999年

599年5月26日（5月28日）（推古7年4月27日）
大和国（奈良県）で地震 M7、家屋倒壊。『日本書紀』に記述。
記録に残る日本初の震災記録 [17]。

679年初頭（天武7年12月）
筑紫国（福岡県）で地震（筑紫地震） M6.5～7.5、幅二丈、長さ三千余丈の地割れ（『日本書紀』）。水縄断層の活動による内陸地震との説がある [18]。

684年11月26日（11月29日）（天武13年10月14日）
白鳳地震（東海・東南海・南海連動型地震説あり） M8 1/4、死者多数。土佐で津波により大きな被害。田園（約12km²）が海面下へ沈下（『日本書紀』）。南海地震の記録だが地質調査によればほぼ同時期に東海・東南海地震も発生。日本最古の津波記録。

701年5月8日（5月12日）（大宝元年3月26日）
丹波で地震（大宝地震）（『続日本紀』）、若狭湾の冠島と沓島が海没したと伝えられるが疑わしい。

715年6月30日・7月1日（7月4・5日）（和銅8年5月25日・26日）
三河国・遠江国（静岡・愛知）で地震 M6.5～7.5、正倉47棟が倒壊。天竜川が塞き止められ、数十日後に決壊して洪水（『続日本紀』）。

734年5月14日（5月18日）（天平6年4月7日）
天平地震（畿内七道地震） M7、死者多数（『続日本紀』）。生駒断層直下型。

745年6月1日（6月5日）（天平17年4月27日）
天平大地震 岐阜県美濃地方で地震 M7.9。天皇平城京に復都（『続日本紀』）。愛知県～岐阜県を南北に走る養老断層の2つ前の活動とする説がある。

762年6月5日（6月9日）（天平宝字6年5月9日）
美濃・飛騨・信濃（岐阜・長野）で地震（『続日本紀』） M7以上。糸魚川静岡構造線活断層系で発生したM7 3/4～8 1/4と同じものである可能性がある。

◆ 781年 富士山の噴火

◆ 800～802年（延暦19年）富士山の噴火（旧暦）3月14日から4月18日にかけて噴火。延暦大噴火

818年8月頃（弘仁9年7月）
北関東で地震 M7.9、死者多数（『類聚国史』）。

827年8月7日（8月11日）（天長4年7月12日）
京都で地震（『類聚国史』） M6.5～7。

830年1月30日（2月3日）（天長7年1月3日）
出羽で地震（『類聚国史』） M7～7.5。

841年前半（承和8年5月3日以前）
伊豆地震 M7、死者多数（『続日本後紀』）。丹那断層の2つ前の活動と見られている。

◆ 846年（貞観6年）富士山 貞観大噴火
864年6月～866年初頭にかけて活動青木ヶ原溶岩を形成した噴火で、山頂から北西斜面約10kmの（現在の長尾山）から大量の溶岩流出とスコリア噴火とを起こす。

850年11月23日（11月27日）（嘉祥3年10月16日）
出羽地震 M7、死者多数（『文徳実録』、『日本三代実録』）。

863年7月6日（7月10日）（貞観5年6月17日）
越中・越後地震 死者多数、直江津付近にあった数個の小島が壊滅したと伝えられる（『日本三代実録』）。発生が疑わしいとする見解もある。（864年（貞観6年5月）富士山噴火（『日本三代実録』）（青木ヶ原樹海を作った貞観大噴火）、阿蘇山噴火）

868年7月30日（8月3日）（貞観10年7月8日）
播磨・山城地震（『日本三代実録』） M7台。兵庫県の山崎断層帯の活動によるものと思われる。

869年7月9日（7月13日）（貞観11年5月26日夜）
貞観地震 M8.3～8.6、陸奥国地大震動、地震に伴う津波（貞観津波）の被害が甚大で死者約1,000人（『日本三代実

録』)。多賀城損壊。津波堆積物調査から震源域が岩手県沖～福島県沖、または茨城県沖の連動型超巨大地震の可能性も指摘される。東北地方太平洋側で繰り返し発生していると推定されるM9クラスの地震の候補とされる。

878年10月28日（11月1日）（元慶2年9月29日）
相模・武蔵地震 M7.4、死者多数。京都でも揺れが感じられる（『日本三代実録』）。

880年11月19日（11月23日）（元慶4年10月14日）
出雲で地震 M7（『日本三代実録』）。

886年6月29日（7月3日）（仁和2年5月24日）
伊豆諸島噴火。安房の国で降灰と地震（『日本三代実録』）。

887年 7月29日（8月2日）（仁和3年7月6日）
越後西部を震源、M6.5。津波による溺死者は1000人にのぼったとされる（『日本三代実録』）。

887年 8月22日（8月26日）（仁和3年7月30日）
仁和地震（東海・東南海・南海地震連動説あり）M8～8.5、五畿七道諸国大震、京都・摂津を中心に死者多数。津波あり（『日本三代実録』）。南海地震の記録だが地質調査によればほぼ同時期に東南海・東海地震も発生。津波堆積物からM9クラスであったとする説もある。

◆915年 十和田火山の噴火 日本の歴史時代における最大の噴火。火砕流が周囲20kmを焼き払い、火山灰が東北地方一帯を覆う。

◆937年（承平7年）富士山の噴火。現在の河口湖と富士吉田市の間にあった「御舟湖」を埋め、剣丸尾第1溶岩を噴出させた噴火とされる。

938年5月17日（5月22日）（承平8年4月15日）
京都などで地震 M7、死者あり。高野山でも建物損壊。その後も余震が多く、8月6日に大きな余震。

976年7月17日（7月22日）（天延4年6月18日）
山城・近江地震 M6.7以上、死者50人以上。

▼西暦1000年～1599年

1026年6月10日（6月16日）（万寿3年5月23日）

万寿地震、石見国（島根県益田市）の日本海沖で巨大な地震津波が発生し、沿岸の各村落に襲来して未曾有の被害をもたらしたとの口碑がある。益田川沿いにて同時期の津波堆積物と思われる層を確認。

1096年12月11日（12月17日）（嘉保3年11月24日）

永長地震（東海・東南海地震） M8～8.5、死者1万人以上と推定。東大寺の鐘が落下、伊勢・駿河で津波による大きな被害など。

1099年2月16日（2月22日）（承德3年1月24日）

康和地震（南海地震） M8～8.5、死者は不明。地殻変動により土佐で田畑海没。津波被害は不明。興福寺、天王寺も被害。

◆1108年（嘉承3年、天仁元年：平安時代） 浅間山の噴火（天仁大規模噴火） 30億トンと推定される噴出物を伴う大噴火。

1154年9月19日（9月26日）（仁平4年8月10日）

富山付近で地震。新川郡で陥没、死傷者多数。

1185年8月6日（8月13日）（元暦2年7月9日）

文治地震 M7.4、死者多数。法勝寺や宇治川の橋など損壊。余震が2か月ほど続く。琵琶湖の水が北流したという記録がある。鴨長明が『方丈記』で詳述。南海トラフ巨大地震説、および琵琶湖西岸断層帯南部の活動による説がある。滋賀県文化財保護協会によると、長浜市の塩津港遺跡はこの地震（堅田断層によるとする）液状化でできたものという。

1200年頃 地質調査によれば南海・東南海・東海地震が発生。

1241年5月15日（5月22日）（仁治2年4月3日）

鎌倉で地震 M7、津波を伴い由比ヶ浜大鳥居内拝殿流失。

1245年8月19日（8月26日）（寛元3年7月26日今夜五刻）

京都で震度5以上、破損多し（理科年表では8月27日）

1257年10月2日（10月9日）（正嘉元年8月23日）
正嘉地震 M7～7.5、関東南部に大きな被害。

1293年5月20日（5月27日）（正応6年4月13日）
鎌倉大地震 M7.1、建長寺などで火災発生、死者2万3,000人あまり、余震多発。

1299年5月25日（6月1日）（正安元年4月25日）
大阪・京都で震度5以上、南禅寺金堂倒れる。

1317年2月16日（2月24日）（正和6年1月5日）
京都で地震 M6.5～7。清水寺出火、死者5人。2月22日にも震度6とみられる大地震。

1325年11月27日（12月5日）（正中2年10月21日）
正中地震。石川県敦賀郡気比神宮倒潰、竹生島の一部が崩れる。柳ヶ瀬断層を震源とするという説があるが、トレンチ調査の結果と一致しない。

1331年 8月7日（8月15日）（元弘元年、元徳3年7月3日）
紀伊で地震。

8月11日（8月19日）（元弘元年、元徳3年7月7日）
元弘地震（東海地震～）M7

1360年11月13・14日（11月21・22日）（正平15年、延文5年10月4日・5日）
紀伊・摂津地震（東南海地震～） M7.5～8.0、死者多数。津波あり。

1361年7月26日（8月3日）（正平16年、康安元年6月24日）
正平地震（康安地震）（東海・東南海・南海地震連動説あり）
M8.1／4～8.5、死者多数。摂津・阿波・土佐で津波により大きな被害。

1408年1月12日（1月21日）（応永14年12月14日）
紀伊・伊勢で地震 M7～8。熊野本宮の温泉湧出が、80日間

止まる。

1433年10月28日（11月6日）（永享5年9月16日）
相模地震 M7程度、死者多数。津波により利根川が逆流。

1449年5月4日（5月13日）（文安6年4月12日）
山城・大和地震 M6.5、死者多数。

1454年12月12日（12月21日）（享徳3年11月23日夜半）
会津で大地震（享徳地震）。奥州海岸に大津波で人が多く流される。15世紀頃と見られる津波堆積物との関連性が指摘されている。

1454年12月29日（1455年1月7日）（享徳3年12月10日）
鎌倉で余震とみられる大地震（『鎌倉大日記』）。

1474年終盤 1475年初頭（文明6年冬）
京都で大地震

1495年9月3日（9月12日）（明応4年8月15日）
鎌倉大仏殿が津波で破壊されたと記録されている（『鎌倉大日記』）。この記録が明応7年の明応地震の混同として扱われて、「理科年表」には記載がない。地層や史料の調査から、相模トラフを震源とする関東地震の可能性が疑われている。

1498年 6月30日（7月9日）（明応7年6月11日）
日向地震 M7～7.5、死者多数。同日、畿内でも地震。南海地震との説もある。

9月11日（9月20日）（明応7年8月25日）
明応地震（東海・東南海地震） M8.2～8.4、死者3万～4万人以上と推定。伊勢・駿河などで津波により大きな被害、浜名湖が海と繋がる、鎌倉高德院の大仏殿が押し流されるなど。地質調査によればほぼ同時期に南海地震も発生。

1502年1月18日（1月28日）（文亀元年12月10日）
越後地震 M6.5～7.0、死者多数。

1510年9月11日（9月21日）（永正7年8月8日）
摂津・河内地震 M6.5～7.0、死者多数。余震が2か月あまり続く。

1520年3月25日（4月4日）（永正17年3月7日）
紀伊・京都で地震 M7.0～7.7。熊野・那智の寺院破壊、津波有り。

1585年7月31日（天正13年7月5日）
大阪・京都・伊勢で大震。

1586年1月18日（天正13年11月29日）
天正地震（東海東山道地震、飛騨・美濃・近江地震） M7.8～8.1（それ以上の可能性あり、あるいはM8クラスの地震が3つ以上同じ日に立て続けに発生した可能性あり）、死者多数。飛騨・越中などで山崩れ多発、白川郷で民家数百軒が埋まる。内ヶ島氏、帰雲城もろとも滅亡。余震が1年以上続く。三河湾と若狭湾という日本海・太平洋両岸での大津波記録が複数あり、複数の巨大地震の同日発生の可能性がある。少なくとも養老断層（愛知県）、阿寺断層（岐阜県）の2つの断層の活動（いずれもM8クラスか）の可能性が高い。さらに若狭湾に津波をもたらした断層も活動したと考えられ、3つのセグメントでのM8クラス地震が同日に少なくとも3つ以上発生した可能性が高い。

1590年3月21日（天正18年2月16日）
安房で地震。2mの隆起あり。潮が引いて3キロの干潟が形成された。

1596年・・・以下の3つは連動型地震の可能性もある。 9月1日（文禄5年閏7月9日）

慶長伊予地震（慶長伊予国地震）M7.0、寺社倒壊等。同年同月に発生した一連の内陸地震のさきがけとなる。四国を走る中央構造線断層帯での地震と考えられている。

9月4日（文禄5年閏7月12日） 慶長豊後地震（大分地震）
M7.0～7.8、死者710人、地震によって瓜生島と久光島の2つの島が沈んだとされている。大分県を走る別府・万年山断層帯での正断層型地震と考えられている。

9月5日（文禄5年閏7月13日） 慶長伏見地震（慶長伏見大地震） M7.0～7.1、京都や堺で死者合計1,000人以上。

伏見城の天守閣や石垣が損壊、余震が翌年春まで続く。淡路島～神戸～大阪北を走る六甲・淡路島断層帯での地震と考えられている。

▼西暦1600年～1799年

江戸時代（1603年頃 1868年頃）17世紀前半

津波堆積物の分析から、この時期に千島海溝南部（十勝沖から根室沖まで）を震源とするM8.6クラスの地震が発生したと推定されている。1611年または1635年説あり。

1605年2月3日（慶長9年12月16日）

慶長地震（東海・東南海・南海連動型地震） M7.9～8、関東から九州までの太平洋岸に津波、紀伊・阿波・土佐などで大きな被害。八丈島でも津波による死者数十人。死者1万～2万人と推定されるが、津波以外の被害はほとんどなかった。

1608年12月30日（慶長13年11月23日）

仙台で地震。津波で50人死亡。

1611年 9月27日（慶長16年8月21日）

会津地震 M6.9、死者3,700人。

1611年 12月2日（慶長16年10月28日）

慶長三陸地震 M8.1。十勝・根室沖のM9クラスとする説がある。一方、東北地方太平洋側で繰り返し発生していると推定されるM9クラスの地震の候補ともされる。大津波による死者約2,000～5,000人。

1614年11月26日（慶長19年10月25日）

高田領大地震 M7.7。震源は直江津沖。震域は会津、伊豆、紀伊、山城、松山諸国まで及んだ。越後高田藩では地震と津波により死者多数とする記録もあるが疑わしい、京都で寺社・民家が多数壊れ死者も出たことから、震源が京都沖の局所的な地震とする見解もある。

同日にM7.7、震源伊豆。伊豆と小田原で被害大。津波被害甚大で多くの死者発生。千葉県銚子市の飯沼観音の境内まで到達したとの記録がある。池上本門寺五重塔が傾く。

1615年6月26日（慶長20年6月1日）

江戸地震 M6以上、死者多数。

1616年9月9日（元和2年7月28日）
宮城県沖地震 M7.0、仙台城が破損。三陸地方大津波。

1619年5月1日（元和5年3月17日）
肥後（熊本）八代で地震 M6.0

1625年7月21日（寛永2年6月17日）
熊本で地震 M5～6、死者約50人。地震動により火薬庫爆発し、熊本城が破損。

1627年10月22日（寛永4年9月14日）
松代地震 M6、死者多数。

1628年8月10日（寛永5年7月11日）
江戸で大きな地震があり、江戸城の石垣が壊れた。

1633年3月1日（寛永10年1月21日）
寛永小田原地震（相模・駿河・伊豆地震） M7.1、小田原で大きな被害を出し死者110～150人。駿河・熱海に津波。

1635年3月12日（寛永12年1月23日）
江戸で地震、大きな被害。

◆1640年 北海道駒ヶ岳の噴火 山体崩壊に伴う岩屑なだれが内浦湾に流入し、大津波が発生。死者700余名。

1640年11月23日（寛永17年10月10日）
加賀大聖寺地震（石川県加賀市） M6.5、死者多数。

1644年10月18日（寛永21年9月18日）
羽後本荘 M6.5、象潟で津波死者117名。本荘城廊大破。

1647年6月16日（正保4年）
武蔵・相模で地震、M6.5。江戸城の石垣や大名屋敷など破損。小田原城に大きな被害。

1648年6月13日（慶安1年4月22日）
相模・江戸で地震 M7.0程度。小田原城破損、箱根で落石、

死者1名。但し、江戸での被害疑問とする見解もある。

1649年 3月17日（慶安2年2月5日）

安芸・伊予で地震 M7.0。松山城、宇和島城の石垣や塀が崩れる。

1649年 7月30日（慶安2年6月21日）

武蔵・下野地震 M7.1、死者多数。

1655年5月2日（明暦2年4月8日）

房総沖地震 千葉県で津波の記録あり。

1659年4月21日（万治2年2月30日）

会津で地震 M6.8～7.0、死者多数。

1662年 6月16日（寛文2年5月1日）

寛文近江・若狭地震（畿内・丹後・東海西部地震、寛文の琵琶湖西岸地震、近江・山城地震） M7.3～7.6、死者数千人。京都の大仏殿小破。小浜で城の櫓・多門・石垣・蔵の破壊。

1662年 10月31日（寛文2年9月20日）

外所地震（日向・大隅地震） M7.6、死者多数。

1666年2月1日（寛文5年12月27日）

越後高田地震 M6.4、死者1,400～1,500人。

1670年6月22日（寛文10年5月5日）

越後村上地震 M6.8、死者13人、江戸でも有感。

1677年 4月13日（延宝5年3月12日） 延宝八戸沖地震
陸奥、陸中、八戸沖（青森県東方沖）で地震 M7.1/4～8.0、津波あり、三陸沖北部の固有地震〔45〕。

1670年 11月4日（延宝5年10月9日）

延宝房総沖地震（房総沖地震） M8.0、死者500～600人。福島県～千葉県に津波（茨城県地方史上最大の津波被害）

1678年10月2日（延宝6年8月17日）

宮城県北部沖で地震 M7.5、死者1人、東北地方の広範囲で被害。

1683年6月17日 10月20日（天和3年5月23日 9月1日）

栃木県北部、日光付近で群発地震 規模の大きなものは、6月17日にM6.0～6.5、6月18日にM6.5～7.0、10月20日にM7.0の地震が発生。10月20日の地震では、五十里村で生じた山崩れが川を塞いだために湖が生じた。関谷断層で発生した可能性が指摘されている。

1686年 1月4日（貞享2年2月12日）

安芸・伊予で地震 M7.0～7.4、広島県中西部を中心に被害、死者有り。

1686年 10月3日（貞享3年8月16日）

遠江・三河地震 M6.5～7、死者多数。

1694年6月19日（元禄7年5月27日）

能代地震 M7.0、陸奥で山崩れなど。死者394人。

1696年11月25日（元禄9年11月1日）

M6.5程度。石巻河口に津波、300隻をさらい、溺死者多数。地震記事は未確認。

1700年4月15日（元禄13年2月26日）

壱岐・対馬地震 M7.3、石垣・家屋倒壊。福岡・佐賀・長崎でも被害。

18世紀 [編集]

1703年12月31日（元禄16年11月23日）

元禄地震（元禄関東地震） M8.1、死者5,200人（20万人とも）。関東南部に津波。

1704年5月27日（宝永元年4月24日）

羽後・陸奥で地震 M7.0、能代の被害大。死者58人。十二湖を生じた。

1707年10月28日（宝永4年10月4日）

宝永地震（東海・東南海・南海連動型地震） M8.4～8.7、死者2,800～2万人以上、倒潰・流出家屋6万～8万軒。関東か

ら九州までの太平洋岸に津波、伊豆・伊勢・紀伊・阿波・土佐などで大きな被害。地震から49日後に富士山の宝永大噴火。道後温泉の湧出が数ヶ月間止まる。震度分布からM9クラスの可能性が指摘されている。

◆1707年 12月16日（宝永4年）富士山の噴火（宝永の大噴火）旧暦11月23日 宝永大噴火 大量のスコリアと火山灰を噴出。この噴火は日本最大級の地震である宝永地震の49日後に始まり、江戸市中まで大量の火山灰を降下させる等特徴的な噴火であった。

1710年10月3日（宝永7年閏8月11日）
因伯美地震 M6.6、山崩れなど。死者多数。

1714年4月28日（正徳4年3月15日）
信濃北西部で地震 M6.2、山崩れなど。死者56人。

1715年2月2日（正徳4年12月28日）
大垣・名古屋・福井で地震 M6.5～7.0。

1717年5月13日（享保2年4月3日）
宮城県沖で地震 M7.5、陸前、陸中で津波や液状化により被害。

1718年8月22日（享保3年7月26日）
三河、伊那遠山谷で地震 M7.0、遠山川の河道閉塞が後日決壊し、死者50人。

1725年8月14日（享保10年7月7日）
高遠・諏訪で地震 M6.0～6.5、諏訪高島城の石垣・堀・門壊れる。山崩れも、死者4人。

1729年8月1日（享保14年7月7日）
能登半島で地震 M6.6～7、死者少なくとも5人。

1731年10月7日（享保16年9月7日）
宮城県南部で地震 M6.5、死者数名、家屋が倒壊。

◆1739年 桜島御岳の噴火（安永大噴火）多量の溶岩を流出し、翌年には海底噴火も発生。長崎や江戸でも降灰があり、死者153名。

1741年8月29日（寛保元年7月19日）

北海道西南沖の大島で火山性地震 M6.9 (Mt 8.4)、死者2,033人。大津波発生、佐渡・能登・若狭にも津波。

1751年5月21日（寛延4年4月26日）

高田地震 M7.0～7.4、死者1,541人。越後・越中で地震。高田で火災など。

1762年10月31日（宝暦12年9月15日）

佐渡島北方沖で地震 M7.0程度、死者あり。液状化現象、津波による家屋流出など。

1763年 1月29日（宝暦12年12月16日）

宝暦八戸沖地震 M7.4～7.9、津波あり。三陸沖北部の固有地震。

1763年 3月11日（宝暦13年1月27日）

青森県東方沖で地震 M7.3、津波あり。宝暦八戸沖地震の最大余震 [45]。

1763年 3月15日（宝暦13年2月1日）

青森県東方沖で地震 M7.0。

1766年3月8日（明和3年1月28日）

津軽地震 M6.9（一説にはM7.2～M7.3とも）、弘前城損壊など。死者約1,500人。津波が千葉県銚子に届いたとの記録あり。

1769年8月28日（明和6年7月28日）

日向・豊後・肥後で地震 M7.3、大分城で被害多く、熊本領内でも被害有り。津波有り。

1771年4月24日（明和8年3月10日）

八重山地震（明和の大津波） M7.4～8.0 (Mt 8.5)、死者約12,000人。最大遡上高85m（日本記録）。安房まで津波の到達と記録あり。

1772年6月3日（安永1年5月3日）

陸前・陸中で地震 M6.8、花巻城で所々破損、江戸でも有感。
死者12人。やや深い地震の可能性有り。

1782年8月23日（天明2年7月15日）
天明小田原地震 M7.0、住宅約800破損、小田原城損壊など。

◆1783年8月5日（天明3年7月8日）浅間山の大噴火（天明の大噴火）7月6日から7月8日の噴火で3日間で大災害を引き起こす。
死者約1500人、「鬼押し溶岩」を生成、後に天明の大飢饉が起きた。

1789年5月11日（寛政元年4月17日）
阿波で地震 M7.0、土佐室津に津波。

1792年 5月21日（寛政4年4月1日）
長崎県 島原半島で雲仙普賢岳の噴火が起こり、眉山の山体崩壊による対岸の肥後国（熊本県）大津波（島原大変肥後迷惑） M6.4、死者約15,000人。

1792年 5月24日（寛政4年4月4日）
寿都湾沖合で地震 M7.1、小樽から積丹（しゃこたん）岬にかけての地域で揺れを感じ、津波が発生したとされている。

1792年 6月13日（寛政4年4月24日）
北海道後津で地震 M7.1。

1793年 2月8日（寛政4年12月28日）
西津軽・鱒ヶ沢で地震 M6.8～7.1。津軽山地西縁断層帯が震源で、地震発生よりも前に海水が引く前兆現象があった。津波による死者3人。

1793年 2月17日（寛政5年1月7日）
寛政地震（連動型宮城県沖地震） M8.0～8.4、死者100人程度、陸中から常陸にかけて津波。

1799年6月29日（寛政11年5月26日）
石川県などで地震（金沢地震） M6。金沢で640人死亡、その他の地域でも死傷者あり。

▼西暦1800年～1999年

1801年5月27日（享和元年4月15日）

上総地震 久留里城が破損。

1802年12月9日（享和2年11月15日）

佐渡小木地震 M6.5～7.0、死者37人。

1804年7月10日（文化元年6月4日）

象潟地震 M7.1、死者500～550人。象潟で2mの地盤隆起と3～4mの津波。

1810年9月25日（文化7年8月27日）

男鹿半島で地震 M6.5、死者60人

1812年12月7日（文化9年11月4日）

武蔵・相模地震 M6、死者多数。

1819年8月2日（文政2年6月12日）

伊勢・美濃・近江地震 M7.3、死者多数。

1823年9月29日（文政6年8月25日）

陸中岩手山で地震 M5.8～6.0、山崩れあり、死者69人、不明4人。

1828年12月18日（文政11年11月12日）

三条地震（越後三条地震） M6.9、死者1,681人。

1830年8月19日（文政13年7月2日）

京都地震 M6.4、死者280人。二条城など損壊。

1833年 5月27日（天保4年4月9日）

美濃西部で地震 M6.2 死者11人。余震は8月まで、震源は根尾谷断層付近。

1833年 12月7日（天保4年10月26日）

庄内沖地震（出羽・越後・佐渡地震、天保4年羽前沖地震） M7.4（M_w8、M_t8.1）、死者40～130人。能登半島・東

北・北陸の日本海沿岸に津波。 1964年新潟地震の津波よりも規模が大きい。

1834年2月9日（天保5年1月1日）

石狩地震 M6.4、旧暦の1月1日に発生、イシカリ場所を中心に81戸全半壊。JR札幌駅以北の複数個所で液状化の跡が見つかるため、M6.5～6.6という説もある。

1835年7月20日（天保6年6月25日）

宮城県沖地震（仙台地震、天保大津波） M7.0程度、死者多数。仙台北城損壊、津波あり。

1839年5月1日（天保10年3月18日）

釧路・厚岸で地震 M7.0程度、国泰寺門前の石灯籠大破。津軽で強い揺れ。

1843年4月25日（天保14年3月26日）

十勝沖地震 M7.5～8.0、死者46人。厚岸に津波。

1847年 5月8日（弘化4年3月24日）

善光寺地震 M7.4。山崩れにより犀川の河道閉塞と閉塞部の決壊により洪水、死者約1万～1万3,000人。

1847年 5月13日（弘化4年3月29日）

越後頸城郡（現在の新潟県高田市付近：高田平野東縁断層）を震源とする地震、M6.5、死者20人以上。善光寺地震の誘発地震。

1853年3月11日（嘉永6年2月2日）

小田原地震（嘉永小田原地震） M6.7、死者約20～100人。

1854年 7月9日（嘉永7年6月15日）

伊賀上野地震（伊賀・伊勢・大和地震） M7.3、死者約1,800人。

1854年 12月23日（嘉永7年11月4日）

安政東海地震（東海・東南海地震） M8.4、死者2,000～3,000人。房総半島から四国に津波、特に伊豆から熊野にかけて大きな被害。ロシア船ディアナ号（プチャーチン提督来航）沈没。

1854年 12月24日 (嘉永7年11月5日)

安政南海地震 M8.4、死者1,000～3,000人。紀伊・土佐などで津波により大きな被害 (串本で最大波高11m)。大坂湾に注ぐいくつかの川が逆流。道後温泉の湧出が数ヶ月間止まる。安政東海・南海地震は32時間の時間差で発生した。両地震による死者の合計は約3万人との説もある。余震とみられる地震は9年間で3,000回近く。 12月26日 (嘉永7年11月7日) 豊予海峡地震 M7.4。12月24日の地震の40時間後に発生、合計72時間で3つの海溝型大地震が発生したことになる。

◆1854年 (嘉永7年・安政元年) 富士山の噴火? 安政東海地震発生直後、富士の山頂に異様な黒雲がかかり、8合目付近に多数の火が上がる様子が眺められたという。

1855年 3月18日 (安政2年2月1日)

飛騨地震 M6.7、死者少なくとも203人。金沢などでも被害。

1855年 9月13日 (安政2年8月3日)

陸前で地震 M7.2。

1855年 11月7日 (安政2年9月28日)

遠州灘で地震 M7.0～7.5、安政東海地震の余震。津波有り。

1855年 11月11日 (安政2年10月2日)

安政江戸地震 (安政の大地震) M7.0～7.1、死者4,700～1万1,000人。

1856年8月23日 (安政3年7月23日)

安政八戸沖地震 M7.5～8.0、三陸及び北海道に津波。死者29人。三陸沖北部の固有地震。

1857年10月12日 (安政4年8月25日)

伊予・安芸で地震 M7.2、今治で城内破損、死者5人。

1858年 4月9日 (安政5年2月26日)

飛越地震 M7.0～7.1。地震による直接の死者数百人、常願寺川がせき止められ後日決壊、それによる死者140人。

1858年 7月8日 (安政5年5月28日)
東北地方太平洋側で地震。M7.0～7.5。

1861年 2月14日
文久西尾地震 M6.0、愛知県西尾市から岡崎市にかけて最大震度5強。内陸直下型地震、震源位置が三河地震とほぼ同じで、安政東海地震の誘発地震。建築研究所特別客員研究員の都司嘉宣が提唱。

1861年 10月21日 (文久元年9月18日)
宮城県沖地震 M6.4、津波、家屋倒壊、死者あり。

1872年3月14日 (明治5年2月6日)
浜田地震 M7.1、死者552人。

★グレゴリオ暦が採用され、明治5年12月2日の翌日を明治6年1月1日 (1873年1月1日) とした。

1880年 (明治13年) 2月22日
横浜で地震 M5.5、煙突多数倒壊。地震学会 (現在の日本地震学会。世界初の地震学会) が結成されるきっかけになる。

1881年 (明治14年) 10月25日
国後島で地震 M7.0、津軽でも揺れる。

★地震観測網整備 (1885年 観測所による地震報告開始)

1889年 (明治22年) 7月28日
熊本地震 M6.3、死者20人。

1891年 (明治24年) 10月28日
濃尾地震 M8.0、死者・行方不明者7, 273人。根尾谷断層の発生。

1892年 (明治25年) 12月9日・11日
石川県・富山県で地震 M6.4 (9日)、弱い津波。死者計2人。

1893年 (明治26年) 6月4日

色丹島沖地震 M7. 7、色丹島で2 m～3 mの津波。

1894年（明治27年）3月22日

根室半島沖地震 M7. 9（Mt 8. 2）、死者1人。北海道・東北に津波。

1894年（明治27年）6月20日

明治東京地震 M7. 0、死者31人。

1894年（明治27年）10月22日

庄内地震 M7. 0、死者726人。

1895年（明治28年）1月18日

茨城県南部で地震 M7. 2、死者6人。

1896年（明治29年）1月9日

茨城県沖で地震 M7. 3。

1896年（明治29年）6月15日

明治三陸地震 M8. 2～8. 5（Ms 7. 2～7. 9、Mw 8. 4、Mt 8. 6）、津波地震、死者・行方不明者2万1, 959人。

1896年（明治29年）6月16日

三陸沖で地震 M7. 5 の地震が2回発生。明治三陸地震の最大余震。

1896年（明治29年）8月31日

陸羽地震 M7. 2、死者209人

1897年（明治30年）2月20日

宮城県沖地震 M7. 4、地割れや液状化、家屋に被害。

1897年（明治30年）8月5日

三陸沖で地震 M7. 7、宮城県や岩手県で津波により浸水被害。

1898年（明治31年）4月23日

宮城県沖で地震 M7. 2、北海道から近畿にかけて有感、岩手県と宮城県の県境付近で被害。

1899年（明治32年）3月7日
紀和地震 M7.0、死者7名、三重県を中心に近畿地方南部で被害。

1899年（明治32年）11月25日
日向灘で地震 3時34分 M7.1 / 3時55分 M6.9。

1900年（明治33年）5月12日
宮城県北部で地震 M7.0、死傷者17人、家屋などに被害。

★注：2003年9月17日に気象庁マグニチュードの算出方法が改訂され、これに伴い1924年以降に発生したほとんどの地震のマグニチュードも改訂された。一部は先行して2001年4月23日に改訂されている。このため、マグニチュードが改訂された地震については改訂前の値を括弧書きで併記している。例：2001年3月24日、芸予地震。Mj 6.7（旧Mj 6.4）。

1900年代 1901年（明治34年）8月9日、8月10日
青森県東方沖で地震 M7.2・7.4、死者18人。

1902年（明治35年）1月30日
青森県三八上北地方で地震 M7.0、死者1人。

1905年（明治38年）6月2日
芸予地震 M7.2、死者11人。

1909年（明治42年）3月13日
千葉県房総半島沖で地震 8時19分 M6.5 / 23時29分 M7.5。

1909年（明治42年）8月14日
姉川地震（江濃地震） M6.8、死者41人。

1909年（明治42年）8月29日
沖縄本島付近で地震 M6.2、死者2人。

1909年（明治42年）11月10日
宮崎県西部で地震 M7.6。

1911年（明治44年）6月15日
喜界島地震 M8.0 (mB 8.1)、死者12人。

1914年（大正3年）1月12日
桜島地震 M7.1、死者29人。

◆1914年 1月12日 桜島の噴火（大正大噴火）多量の溶岩を流出し、大隅半島と陸続きになる。九州から東北にかけての広い範囲で降灰があり、死者58名。

1914年（大正3年）3月15日
仙北地震 M7.1、死者94人。

1915年（大正4年）1月6日
石垣島北西沖で地震 M7.4。

1915年（大正4年）3月15日
北海道十勝沖で地震 M7.0、死者2人。

1915年（大正4年）11月1日
宮城県沖で地震 M7.5、岩手県や宮城県の沿岸に小津波。

1916年（大正5年）11月26日
明石付近で地震 M6.1、死者1人。

1917年（大正6年）5月18日
静岡付近で地震 M6.0、死者2人。

1918年（大正7年）9月8日
択捉島沖地震 M8 (Ms 8.2、Mt 8.5)、死者24人。

1921年（大正10年）12月8日
龍ヶ崎地震 千葉県・茨城県県境付近で発生。M7.0。家屋倒壊、道路亀裂。

1922年（大正11年）4月26日

浦賀水道地震 M6. 8、死者2人。

1922年（大正11年）12月8日
島原地震（千々石湾地震） 1時50分 M6. 9 / 11時
02分 M6. 5、長崎県橘湾で地震、死者・行方不明者～人。

1923年（大正12年）6月2日
茨城県沖で地震 2時24分 M7. 1 / 5時15分 M7.
1。

1923年（大正12年）7月13日
九州地方南東沖で地震 20時13分 M7. 3 震源深さ 4
4 km。

1923年（大正12年）9月1日
関東地震（大正関東地震、関東大震災） M7. 9（Ms 8. 2、
Mt 8. 0、Mw 7. 9～8. 0）、死者・行方不明者10万5, 3
85人（1925年の調査では14万2, 800人）日本災害史上最
悪）。

1924年（大正13年）1月15日
丹沢地震 Mj 7. 3、死者19人。大正関東地震の余震と見ら
れている。

1924年（大正13年）7月21日
北海道東方沖で地震 Mj 7. 5、最大震度4。

1924年（大正13年）8月15日
茨城県沖で地震 Mj 7. 2。

1924年（大正13年）12月27日
網走沖で地震 Mj 7. 0、深さ150 km。

1925年（大正14年）
5月23日 北但馬地震 Mj 6. 8、火災発生、死者428人。

1926年（大正15年）6月29日
沖縄本島北西沖で地震 Mj 7. 0。

- 1926年 8月7日
宮古島近海で地震 Mj 7. 0。
- 1927年（昭和2年）3月7日
北丹後地震 Mj 7. 3、死者2, 925人。
- 1928年（昭和3年）5月27日
岩手県沖で地震 Mj 7. 0。
- 1930年（昭和5年）2月13日～5月31日
伊東群発地震 最大Mj 5. 9。
- 1930年（昭和5年）10月17日
石川県大聖寺付近で地震 Mj 6. 3、死者1人。
- 1930年（昭和5年）11月26日
北伊豆地震 Mj 7. 3、死者272人。
- 1931年（昭和6年）2月20日
日本海北部で地震 Mj 7. 2、深さ403 km。
- 1931年（昭和6年）3月9日
三陸沖で地震 Mj 7. 2。
- 1931年（昭和6年）9月21日
西埼玉地震 Mj 6. 9、死者16人。
- 1931年（昭和6年）11月2日
日向灘で地震、Mj 7. 1、死者2人。
- 1932年（昭和7年）9月23日
日本海北部で地震 Mj 7. 1、深さ394 km。
- 1933年（昭和8年）3月3日
昭和三陸地震（三陸沖地震） Mj 8. 1（Mw 8. 4）、大津波発生、死者・行方不明者3, 064人。（アウターライズ地震）
- 1933年（昭和8年）6月19日
宮城県沖で地震 Mj 7. 1。宮城県沖地震の一つとみられる

[54]。

1933年（昭和8年）9月21日
能登半島で地震 Mj 6.0、死傷者60人。

1934年（昭和9年）2月24日
硫黄島近海で地震 Mj 7.1。

1935年（昭和10年）7月11日 静岡地震 Mj 6.4、死者9人。
10月18日 三陸沖で地震 Mj 7.1。

1936年（昭和11年）2月21日
河内大和地震 Mj 6.4、死者9人。

1936年（昭和11年）11月3日
宮城県沖地震 Mj 7.4、小被害（ほぼ同規模の1978年宮城県沖地震と比較すると、死者皆無など遥かに小規模の被害）、小津波あり。

1936年（昭和11年）12月27日
新島近海で地震 Mj 6.3、死者3人。

1937年（昭和12年）7月27日
宮城県沖で地震 Mj 7.1。宮城県沖地震の一つとみられる。

1938年（昭和13年）5月23日
茨城県沖で地震 Mj 7.0。

1938年（昭和13年）5月29日
屈斜路湖地震 Mj 6.1、北海道・屈斜路湖付近で地震、死者1人。

1938年（昭和13年）6月10日
宮古島北西沖で地震 Mj 7.2、宮古島で2m前後の津波。

1938年（昭和13年）11月5・6日
福島県東方沖地震（塩屋埼沖地震） Mj 7.5、 Mj 7.3
／ 7.4（Mw 7.8）、福島県や宮城県で震度5、福島県で死

者1人、東北～関東に津波。

1939年（昭和14年）3月20日
日向灘で地震 Mj 6. 5、死者1人。

1939年（昭和14年）5月1日
男鹿地震 Mj 6. 8、秋田市で震度5、死者27人。

1940年（昭和15年）8月2日
積丹半島沖地震（神威岬沖地震） Mj 7. 5、死者10人。

1941年（昭和16年）7月15日
長野地震 Mj 6. 1、死者5人。

1941年（昭和16年）11月19日
日向灘で地震 Mj 7. 2、九州東岸、四国沿岸で津波1m。死者2人。

1943年（昭和18年）6月13日
青森県東方沖で地震 Mj 7. 1。

1943年（昭和18年）9月10日
鳥取地震 Mj 7. 2、死者1, 083人。

1943年（昭和18年）10月13日
長野県北部で地震 Mj 5. 9、死者1人。

1944年（昭和19年）12月7日
東南海地震 三重県沖、Mj 7. 9 (Mw 8. 2)、死者・行方不明者1, 223人、伊豆から紀伊にかけて津波。

1945年（昭和20年）1月13日
三河地震 Mj 6. 8、死者・行方不明者2, 306人、津波あり。

1945年（昭和20年）2月10日
青森県東方沖で地震 Mj 7. 1、死者2人。

1946年（昭和21年）12月21日

南海地震（昭和南海地震） 和歌山県沖～四国沖、Mj 8. 0
(Mw 8. 4 [58])、死者・行方不明者1, 443人、房総から九州にかけて津波。

1947年（昭和22年）9月27日
与那国島近海で地震 Mj 7. 4、死者5人。

1948年（昭和23年）4月18日
和歌山県南方沖で地震 Mj 7. 0。

1948年（昭和23年）6月15日
紀伊水道で地震 Mj 6. 7、死者2人。

1948年（昭和23年）6月28日
福井地震 Mj 7. 1、死者・行方不明者3, 769人。※この地震を機に気象庁が震度7を制定。

1949年（昭和24年）7月12日
安芸灘で地震 Mj 6. 2、死者2人。

1949年（昭和24年）12月26日
今市地震 Mj 6. 4、死者・行方不明者10人。

1950年（昭和25年）2月28日
宗谷東方沖で地震 Mj 7. 5。

★気象庁震度階級については1995年の兵庫県南部地震において従来の震度測量法の問題点が示されたため、それまで体感震度と計測震度を併用していたものを、1996年4月からは全て計測震度計による機械観測で判定することになった。また、1996年10月からは震度6、震度5がそれぞれ強、弱の2段階に分けられた。

1951年（昭和26年）7月12日
小笠原諸島西方沖で地震 Mj 7. 2。

1952年（昭和27年）3月4日
十勝沖地震 Mj 8. 2 (Mw 8. 1)、死者・行方不明者33人。北海道から東北に津波。

1952年（昭和27年）3月7日
大聖寺沖地震 Mj 6.5、死者7人。

1952年（昭和27年）7月18日
吉野地震 Mj 6.7（旧Mj 6.8）、死者9人。

◆1952～1953年 明神礁で海底火山の噴火 一時新島を形成するも消滅。海上保安庁水路部観測船「第5海洋丸」が噴火に巻き込まれて遭難、死者31名。

1953年（昭和28年）11月26日
房総沖地震 Mj 7.4。

1955年（昭和30年）5月30日
硫黄島近海で地震 Mj 7.1（21時31分、深さ488 km）、Mj 7.5（21時33分、600 km）の地震が相次いで発生。

1955年（昭和30年）7月27日
徳島県南部で地震 Mj 6.4、死者1人。

1956年（昭和31年）9月30日
白石地震 Mj 6.0、福島市で震度4、死者1名、蔵王山噴火のデマにより混乱。

1958年（昭和33年）11月7日
択捉島沖地震、 Mj 8.1（Mw 8.3）、太平洋岸各地に津波。

1958年（昭和33年）3月11日
宮古島近海で地震 Mj 7.2、石垣島などで震度5、死者2人。

1960年（昭和35年）3月21日
三陸沖で地震 Mj 7.2。

1960年（昭和35年）5月23日
チリ地震津波 南米チリ沖で発生した巨大地震に伴う津波。日本国内での死者142人。

- 1961年（昭和36年）2月2日
長岡地震 Mj 5. 2、死者5人。
- 1961年（昭和36年）2月27日
日向灘地震 Mj 7. 0、宮崎県沖で地震、死者2人。
- 1961年（昭和36年）8月12日
釧路沖で地震 Mj 7. 2
- 1961年（昭和36年）8月19日
北美濃地震 Mj 7、死者8人。
- 1962年（昭和37年）4月23日
広尾沖地震 Mj 7. 1。同年6月29日に十勝岳が噴火している。
- 1962年（昭和37年）4月30日
宮城県北部地震 Mj 6. 5、死者3人。
- 1963年（昭和38年）10月13日
択捉島沖地震 Mj 8. 1 (Mw 8. 5)、三陸沿岸で津波。
- 1964年（昭和39年）6月16日
新潟地震 Mj 7. 5、死者26人。最大震度5。
- 1965年（昭和40年）4月20日
静岡県で地震 Mj 6. 1、清水付近で大きな被害、死者2人。
- 1965年（昭和40年）8月3日～1970年6月5日
松代群発地震 最大Mj 5. 4（1966年4月5日）、全地震のエネルギーの総計はM6. 4相当。
- 1966年（昭和41年）
与那国島近海で地震 Mj 7. 8、与那国島で震度5、死者2人。
- 1968年（昭和43年）2月21日
えびの地震 Mj 6. 1、死者3人。
- 1968年（昭和43年）4月1日

日向灘地震 Mj 7. 5、死者1人。

1968年（昭和43年）5月16日

十勝沖地震 Mj 7. 9 (Mw 8. 3)、三陸沿岸で5mの津波。
死者・行方不明者52人。最大震度5。三陸沖北部の固有地震。

1968年（昭和43年）6月12日

三陸沖で地震 Mj 7. 2。

1968年（昭和43年）10月8日

小笠原諸島西方沖で地震 Mj 7. 4、深さ480km。

1969年（昭和44年）8月12日

色丹島沖地震 Mj 7. 8 (Mw 8. 2)。

1969年（昭和44年）9月9日

岐阜県中部地震 Mj 6. 6、死者1人。

1970年（昭和45年）5月27日

小笠原諸島西方沖で地震、Mj 7. 0、深さ440km。

1971年（昭和46年）2月26日

新潟県上越地方で地震 Mj 5. 5、死傷者13人。新潟県上越市で最大震度4。

1971年（昭和46年）8月2日

十勝沖で地震 Mj 7. 0、北海道浦河町で最大震度5。

1972年（昭和47年）2月29日

八丈島東方沖で地震、Mj 7. 0、八丈島で最大震度5。

1972年（昭和47年）12月4日

八丈島東方沖地震 Mj 7. 2、八丈島で最大震度6。福井地震以来、震度6の観測事例が無く、この地震で24年ぶりに公式に震度6を観測した。

1973年（昭和48年）6月17日

根室半島沖地震 Mj 7. 4 (Mt 8. 1)、北海道で最大震度5、津波地震。

1974年（昭和49年）5月9日
伊豆半島沖地震 Mj 6.8、静岡県で最大震度5、死者30人。

1974年（昭和49年）11月13日
鳥島近海で地震 Mj 7.3、深さ420km、福島県と千葉県で最大震度4。

1975年（昭和50年）6月10日
北海道東方沖で地震 Mj 7.0 (Mt 7.9、Mw 7.7)、最大震度は1と小さいが色丹島で4～3.5m、花咲港で95cmの津波を観測。

1975年（昭和50年）6月29日
日本海西部で地震 Mj 7.4、深さ600km、最大震度3。

1978年（昭和53年）1月14日
伊豆大島近海の地震 Mj 7.0、伊豆大島と神奈川県で最大震度5、死者25人。

1978年（昭和53年）3月7日
東海道南方沖で地震 Mj 7.2、深さ440km、栃木県と千葉県で最大震度4。

1978年（昭和53年）6月12日
宮城県沖地震 Mj 7.4、宮城県などで最大震度5、死者28人、津波あり。

1980年（昭和55年）6月25日～7月
伊豆半島東方沖で群発地震 6月29日に最大Mj 6.7、最大震度5が発生。

1980年（昭和55年）9月25日
千葉県北西部で地震 Mj 6.0 [60] 6.1 [61]、最大震度4、死者2人。

1981年（昭和56年）1月19日
三陸沖で地震 Mj 7.0、最大震度4。

- 1982年（昭和57年）3月21日
浦河沖地震 Mj 7. 1、北海道で最大震度6。
- 1982年（昭和57年）7月23日
茨城県沖で地震 Mj 7. 0。
- 1983年（昭和58年）5月26日
日本海中部地震 Mj 7. 7 (Mt 8. 1)、秋田県で最大震度5、日本海に大津波、死者104人。
- 1983年（昭和58年）6月21日
青森県西方沖で地震 Mj 7. 1、最大震度4、日本海中部地震の最大余震。
- 1983年（昭和58年）8月8日
山梨県東部で地震 Mj 6. 0、最大震度4、死者1人。
- 1984年（昭和59年）1月1日
三重県南東沖で地震 Mj 7. 0、深さ388km、最大震度4。
- 1984年（昭和59年）3月6日
鳥島近海で地震 Mj 7. 6、深さ452km、最大震度4。
- 1984年（昭和59年）8月7日
日向灘で地震 Mj 7. 1、最大震度4。
- 1984年（昭和59年）9月14日
長野県西部地震 Mj 6. 8、長野県で最大震度6、死者・行方不明者29人。
- 1987年（昭和62年）3月18日
日向灘で地震 Mj 6. 6、死者1人。
- 1987年（昭和62年）5月7日
日本海北部で地震 Mj 7. 0、深さ463km。
- 1987年（昭和62年）12月17日
千葉県東方沖地震 Mj 6. 7、千葉県で最大震度5、死者2人（関東における戦後初の被害地震）。

1989年（平成元年）6月30日～7月24日

伊豆半島東方沖で群発地震 最大Mj 5.5、7月13日に伊豆東部火山群の海底火山が噴火。

1989年（平成元年）11月2日

三陸沖で地震 Mj 7.1、最大震度4、久慈で1.3mの津波を観測。

◆1990年～1995年 雲仙普賢岳の噴火 溶岩ドームの崩壊による火砕流が繰り返し発生し、死者・行方不明者43名。平成新山形成。

1993年（平成5年）1月15日

釧路沖地震 Mj 7.5（旧M7.8）、北海道釧路市で最大震度6、死者2人。

1993年（平成5年）7月12日

北海道南西沖地震 Mj 7.8（Mt 8.1）、北海道道央、道南、青森県津軽で最大震度5、死者・行方不明者230人。奥尻島などに津波。

1993年（平成5年）10月12日

東海道南方沖で地震 Mj 6.9（旧M7.1）、死者1人。

1994年（平成6年）7月22日

日本海北部で地震 Mj 7.3、深さ552km。

1994年（平成6年）10月4日

北海道東方沖地震 Mj 8.2（旧M8.1、Mw 8.3）、北海道道東で最大震度6、死者・行方不明者は北方領土で11人。

1994年（平成6年）10月9日

北海道東方沖で地震 Mj 7.3、釧路市で震度4、北海道東方沖地震の最大余震。

1994年（平成6年）12月28日

三陸はるか沖地震 Mj 7.6（旧M7.5）、青森県で最大震度6、死者3人。

1995年（平成7年）1月7日

岩手県沖で地震 Mj 7. 2、八戸市で震度5、三陸はるか沖地震の最大余震。

1995年（平成7年）1月17日

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災、阪神大震災） Mj 7. 3（旧Mj 7. 2）、Mw 6. 9、兵庫県南部で最大震度7、死者・行方不明者6, 437人。当初は最大震度6だったが、実地検分により7に修正された。

1995年（平成7年）12月4日

択捉島南東沖で地震 Mj 7. 7（北緯 44. 58度、東経 149. 39度）。根室 17cm、八戸 13cm、釧路 10cmの津波を観測。

★高感度地震観測網整備（1996年）

1997年（平成9年）5月13日

鹿児島県北西部地震 Mj 6. 4（旧Mj 6. 3）、最大震度6弱

1998年（平成10年）4月20日～5月

伊豆半島東方沖で群発地震、最大 Mj 5. 7、最大震度4。

1998年（平成10年）5月4日

石垣島南方沖地震 Mj 7. 7（旧Mj 7. 6）、一時津波警報発令。

1998年（平成10年）8月20日

小笠原諸島西方沖で深発地震 Mj 7. 1。

1998年（平成10年）9月3日

岩手県内陸北部地震 Mj 6. 2（旧Mj 6. 1）、最大震度6弱。

▼西暦2000年～

2000年（平成12年）1月28日

根室半島南東沖で深発地震 Mj 7. 0、釧路市などで最大震度4。

2000年（平成12年）3月28日

硫黄島近海で深発地震 Mj 7. 9、震源の深さ128km、小笠原で震度3。

2000年（平成12年）7月1日～8月18日

新島・神津島・三宅島近海で地震 Mj 6. 5が2回（7月1、30日）、Mj 6. 3が1回（7月15日）、最大震度6弱の地震を6回観測（7月1、9、15、30日に各1回、8月18日に2回）、死者1人。約1ヶ月後に三宅島が噴火。地震活動は6月26日から始まった。

2000年（平成12年）8月6日

小笠原諸島西方沖で深発地震 Mj 7. 2、震源の深さ445km、小笠原で震度4。

2000年（平成12年）10月6日

鳥取県西部地震 Mj 7. 3、鳥取県西部で最大震度6強。（日野町で震度7相当を観測、防災科学技術研究所K i k - n e tの計測震度計による）

◆2000～2002年 三宅島雄山で噴火 山頂部に陥没カルデラを形成、多量の火山ガスを放出。全島民が島外へ避難。

2001年（平成13年）3月24日

芸予地震 Mj 6. 7（旧Mj 6. 4）（Mw 6. 8）、広島県南部で最大震度6弱、死者2人。フィリピン海プレート内の地震。

2001年（平成13年）12月18日

与那国島近海で地震 Mj 7. 3、与那国島で震度4、西表島で最大高20cmの津波を観測。

2002年（平成14年）3月26日

石垣島近海で地震 Mj 7. 0

2003年（平成15年）5月26日

三陸南地震（宮城県北部沖地震、東北地震） Mj 7. 0、岩手県・宮城県で最大震度6弱。太平洋プレート内の地震。

2003年（平成15年）7月26日

宮城県北部地震 Mj 6. 4、宮城県北部で最大震度6強（このほかにも、前震と余震でそれぞれ1回ずつ震度6弱を記録）。

2003年（平成15年）7月27日

日本海北部で地震 Mj 7. 1、深さ487 km。

2003年（平成15年）9月26日

十勝沖地震 Mj 8. 0 (Mw 8. 3)、北海道新冠町、静内町、浦河町、鹿追町、幕別町、豊頃町、忠類村、釧路町、厚岸町で最大震度6弱、死者・不明者2人。津波警報が発令され2 mを超える津波が来襲し2人が飲み込まれ、2年後に1人が遺体で見つかった。同日6時8分頃、十勝沖で地震 Mj 7. 1。北海道浦河町で最大震度6弱。十勝沖地震の余震。

2004年（平成16年）9月5日

紀伊半島南東沖地震 最も大きい地震は Mj 7. 4、奈良県・和歌山県・三重県で最大震度5弱。一時津波警報が発令。

2004年（平成16年）10月23日

新潟県中越地震（新潟県中越大震災） Mj 6. 8 (Mw 6. 7)、新潟県中越地方で最大震度7。計測震度計で震度7が観測された最初の地震。死者68人。震度6弱以上の余震を4回観測。川口町の地震計で当時世界最高の2, 516ガルを記録。

2004年（平成16年）11月29日

釧路沖で地震 Mj 7. 1、北海道釧路町、弟子屈町などで最大震度5強、深さ48 km。最大余震は4分後のMj 6. 0。同年12月6日にもほぼ同じ海域でMj 6. 9の地震が発生している。一時津波注意報が北海道太平洋沿岸東部に発令。

2004年（平成16年）12月14日

留萌支庁南部地震 Mj 6. 1、北海道小平町で最大震度6弱（5強とする見解あり）。

2005年（平成17年）3月20日

福岡県西方沖地震 Mj 7. 0、福岡県・佐賀県で最大震度6弱、死者1人。

2005年（平成17年）8月16日

宮城県沖で地震 Mj 7. 2、宮城県で最大震度6弱。宮城県沖地震の一つとみられる。

2005年（平成17年）11月15日

三陸沖で地震 Mj 7. 2、北海道から関東にかけて最大震度3。大船渡市で最大50cmの津波観測。

2006年（平成18年）4月21日

伊豆半島東方沖地震 Mj 5. 8、静岡県伊東市で最大震度6弱（東京大学地震研究所の計測震度計による。気象庁では震度4）。伊東市、伊豆市など伊豆半島各地で被害多数。

2007年（平成19年）3月25日

能登半島地震 Mj 6. 9 (Mw 6. 6)、最大震度6強。死者1人、小さいながら津波も発生した。

2007年（平成19年）7月16日

新潟県中越沖地震 Mj 6. 8 (Mw 6. 7)、新潟県・長野県で最大震度6強。柏崎刈羽原子力発電所では震度7相当との試算があるが、計測地震計によるものではない。柏崎市を中心に家屋倒壊や土砂崩れなどの被害。死者15人。ピンポイントながら最大1mの津波も観測されている。同日15時37分頃、新潟県中越沖で地震 Mj 5. 8、新潟県長岡市、出雲崎町で最大震度6弱。

2008年（平成20年）5月8日

茨城県沖で地震 Mj 7. 0、茨城県水戸市・栃木県茂木町で最大震度5弱。午前1時45分に本震発生。同日には午前1時2分頃に Mj 6. 4、その14分後にも Mj 6. 3の地震発生。

2008年（平成20年）6月14日

岩手・宮城内陸地震 Mj 7. 2 (Mw 7. 0)、岩手県・宮城県で最大震度6強。山崩れや地滑りが多発。死者・行方不明者23人。一関西で観測された4, 022ガルがギネス世界記録に認定[66]。

2008年（平成20年）7月24日

岩手県沿岸北部で地震 Mj 6. 8、岩手県九戸郡野田村などで最大震度6弱、死者1人。震源の深さ108km。なお、岩手・宮城

内陸地震との関連性は薄いとされている。

2008年（平成20年）9月11日

十勝沖で地震 $M_j 7.1$ 。北海道新冠町、新ひだか町、浦幌町、大樹町で最大震度5弱。

2009年（平成21年）8月9日

東海道南方沖で地震 $M_j 6.8$ ($M_w 7.1$ [67])、深さ333km、関東から東北地方南部にかけて最大震度4。

2009年（平成21年）8月11日

駿河湾で地震 $M_j 6.5$ 、静岡県で最大震度6弱。死者1人。最大40cmの津波を観測。気象庁は史上初の東海地震観測情報を発表。

2010年（平成22年）2月27日

沖縄本島近海で地震 $M_j 7.2$ ($M_w 7.0$)。糸満市で最大震度5弱を観測。負傷者2名。沖縄本島地方に一時津波警報が発令された。南城市で10cmの津波を観測。

2010年（平成22年）11月30日

小笠原諸島西方沖で地震 $M_j 7.1$ 、深さ490km、関東から東北地方南部の広い範囲で最大震度3。

2010年（平成22年）12月22日

父島近海で地震 $M_j 7.4$ 、父島と母島で最大震度4を観測。小笠原諸島に一時津波警報が発令された。伊豆諸島で0.5m、八丈島で最大60cmの津波を観測。

2011年（平成23年）3月9日

三陸沖で地震 $M_j 7.3$ 。宮城県登米市、美里町、栗原市で最大震度5弱。最大60cmの津波を観測。東北地方太平洋沖地震の前震とみられる。

2011年（平成23年）3月11日

14時46分頃 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災） M_w （モーメントマグニチュード）9.0 ($M_j 8.4$ 、日本の地震観測史上最大)。宮城県栗原市で最大震度7。他に東日本の7県で震度6弱以上を観測。死者・行方不明者約1万9000人。戦後最悪の震

災。北海道から関東地方にかけて太平洋沿岸部への巨大津波で甚大な被害。福島第一原子力発電所事故を招く。3月11日以降の数日間に震源域から離れた場所で発生した地震も、誘発させた可能性が指摘されている。

同日15時8分頃 岩手県沖で地震 $M_j 7.4$ 。青森県、岩手県で最大震度5弱。東北地方太平洋沖地震の余震。

同日15時15分頃 茨城県沖で地震 $M_w 7.7$ ($M_j 7.6$)。茨城県鉾田市で最大震度6強。東北地方太平洋沖地震の余震。

同日15時25分頃 三陸沖で地震 $M_j 7.5$ 。北海道、東北地方、関東地方の広い範囲で最大震度4。東北地方太平洋沖地震の余震。(アウターライズ地震)

2011年(平成23年)3月12日

3時59分頃 長野県北部で地震 $M_j 6.7$ ($M_w 6.3$)。長野県栄村で最大震度6強、死者3人。東北地方太平洋沖地震の誘発地震。同日4時31分頃 長野県北部で地震 $M_j 5.9$ 。長野県栄村で最大震度6弱。長野県北部地震の余震。同日5時42分頃 長野県北部で地震 $M_j 5.3$ 。長野県栄村で最大震度6弱。同上。

2011年(平成23年)3月15日

静岡県東部で地震 $M_j 6.4$ ($M_w 6.0$)。静岡県富士宮市で最大震度6強。東北地方太平洋沖地震の誘発地震。

2011年(平成23年)4月7日

宮城県沖で地震 $M_j 7.2$ ($M_w 7.1$)。宮城県栗原市、仙台市宮城野区で最大震度6強。死者4人。東北地方太平洋沖地震の余震。

2011年(平成23年)4月11日

福島県浜通りで地震 $M_j 7.0$ ($M_w 6.7$)。福島県いわき市や茨城県鉾田市などで最大震度6弱。死者4人。東北地方太平洋沖地震の余震。

2011年(平成23年)4月12日

福島県中通りで地震 $M_j 6.4$ 。福島県いわき市、茨城県北茨城市で最大震度6弱。東北地方太平洋沖地震の余震。

2011年(平成23年)6月30日

長野県中部で地震 $M_j 5.4$ 、長野県松本市で最大震度5強。

死者1人。東北地方太平洋沖地震の誘発地震。

2011年（平成23年）7月10日

三陸沖で地震 $M_j 7.3$ ($M_w 7.0$)。岩手県、宮城県、福島県で最大震度4。岩手県大船渡港、福島県相馬港で10cm、宮城県仙台港で12cmの津波を観測。東北地方太平洋沖地震の余震。

2011年（平成23年）10月3日～10月12日

富山県東部の長野県との県境近くで群発地震。10月5日に $M_j 5.4$ （最大震度3）、 $M_j 5.2$ （最大震度4）などの地震が相次ぐ。10月7日の $M_j 2.4$ （最大震度1）の地震による落石で死者1人。

2011年（平成23年）11月8日

沖縄本島北西沖で地震 $M_j 7.0$ 、深さ217km。沖縄本島地方で最大震度4を観測。

2012年（平成24年）1月1日

鳥島近海で地震 $M_j 7.0$ 、深さ約370km。東北から関東の広い範囲で最大震度4を観測。

2012年（平成24年）3月14日

千葉県東方沖で地震 $M_j 6.1$ 。千葉県と茨城県で震度5強を観測。死者1人。東北地方太平洋沖地震の余震。

2012年（平成24年）12月7日

三陸沖で地震 $M_j 7.3$ ($M_w 7.4$)、深さ49km。青森県、岩手県、宮城県、茨城県、栃木県で最大震度5弱を観測。死者2人。東北地方太平洋沖地震の余震。石巻市で98cmの津波を観測。最初に日本海溝の東側で逆断層型、次に西側で正断層型が発生。

2013年（平成25年）4月13日

淡路島付近で地震 $M_j 6.3$ 、深さ15km。淡路市で最大震度6弱 兵庫、大阪、香川、徳島の4府県で半壊34棟、一部損壊1939棟 重傷7人、軽傷19人。

▼説明

- ・この年表は個人参照を目的に、日本地震学会及びWikiペディア、その他ネットの火山情報等のデータを抜粋し、キンドル用に編集したものです。
- ・個人での利用は自由ですが、第三者への再配布及び営利目的での使用は禁止します。
- ・火山は歴史上有名な物、被害の大きな物を抜粋。

▼修正追加履歴

2013/5/7 追記&修正
2013/2/2 重複部分を修正
2013/2/4 段落の不備、文字修正

▼参照

日本地震学会 日本付近のおもな被害地震年代表
http://www.zisin.jp/modules/pico/index.php?cat_id=100

wikipedia 地震の年表

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E9%9C%87%E3%81%AE%E5%B9%B4%E8%A1%A8_\(%E6%97%A5%E6%9C%AC\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E9%9C%87%E3%81%AE%E5%B9%B4%E8%A1%A8_(%E6%97%A5%E6%9C%AC))